



大田区長

鈴木 晶雅

大田区には全国初となる勝海舟記念館がございます。墨田区で生まれ、のちに港区に居を構えた海舟ですが、なぜ大田区・洗足池畔に海舟が眠る墓所そして勝海舟記念館があるのでしょうか。

海舟が洗足池を初めて訪れたのは、江戸無血開城を決定づけた池上本門寺会談へ向かう途中のことでした。歌川広重が浮世絵に描き、川瀬巴水も版画のモチーフにした、自然豊かで美しい景色に魅せられたのでしょうか。晩年この地に別荘を構え、埋葬されることを望みました。

記念館は、海舟亡きあと、別荘と墓所の管理、幕末維新期に関する書籍の閲覧等を目的に建てられた国登録有形文化財である「旧清明文庫」を保存・活用して令和元年に開館しました。近くの洗足池公園は、東京都指定名勝です。

勝海舟生誕 200 年であるこの機会に、ぜひ多くの方が洗足池エリアにお越しになることを願っております。



墨田区長

山本 亨

勝海舟は墨田区両国で生まれました。

勝海舟は「人との結びつき」をととても大事にし、物事を前に進める際には、「誰とつながり、誰から情報を得るか」を見極める目を持っていたといいます。

墨田区では、江戸時代からの伝統である人情豊かな風土を活かし、人々の心の温かさを魅力に感じていただきたいの想いで、「人 つながる 墨田区」というメッセージを掲げ、まちづくりを進めています。勝海舟はまさにその先人です。郷土の英雄である勝海舟の生誕200年にあたり、墨田区においても、各種の記念事業を実施いたします。開催に当たっては、ゆかりのある港区、大田区、そして、台東区との“つながり”を深めながら、200年の節目を盛り上げたいと思います。

墨田区には、勝海舟生誕の地や勝海舟像をはじめ、数多くの足跡があります。この機会に、ぜひ、各区にある、勝海舟ゆかりの地を訪れていただき、思いを馳せていただければと思います。

勝海舟 生誕 200 年によせて 海舟ゆかりの4区長より

勝海舟は、港区内の薩摩藩邸で西郷隆盛との会談により江戸城無血開城を実現させたことが広く知られています。23歳で港区赤坂の地に移り住み、維新後は、徳川宗家に従い静岡へ移りますが、再び赤坂に戻り、生涯を終えるまで赤坂を愛し、暮らし続けました。

勝海舟生誕200年の今年は、江戸幕府を開いた徳川家康もドラマで話題です。徳川家の菩提寺増上寺が区役所の眼前に広がる港区では、戸板女子短期大学と連携し、ふたりの歴史観光PRキャラクターを作成しました。また、台東区、墨田区、大田区の協力のもと実施しているデジタルクイズラリーは、各区の歴史遺産を探訪できる絶好の機会ですので、ぜひご参加ください。

港区の歴史を紐解くと、その中心はいつも「人」でした。勝海舟ゆかりの地をはじめ様々な時代に活躍した先人の足跡を辿りながら、今日まで連綿と続く歴史に思いを馳せていただければ幸いです。



港区長

武井 雅昭

今年は勝海舟の生誕200年の節目を迎えます。

勝海舟は、新政府軍が江戸に進軍した際に薩摩藩邸における西郷隆盛との会見や、池上本門寺での会談等を経て、江戸城の無血開城を実現させたことでも知られています。

台東区の上野恩賜公園には、海舟と会見した西郷隆盛像があります。西郷隆盛の像は明治 31 年に建立され、作者は台東区にゆかりのある高村光雲です。

上野恩賜公園には博物館や動物園、美術館などの文化施設もあり、春には桜、夏には不忍池全体に広がる蓮の花、秋には紅葉した木々を楽しむことができます。

生誕200年の今年は、勝海舟にゆかりのある4区で連携したイベントを展開しています。

この機会に勝海舟の生涯を振り返りながら、ゆかりの地を巡っていただければ幸いです。



台東区長

服部 征夫